



まほろばの丘から



令和5年1月12日 文責 校長 江口 尋信

明けましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。



令和5（2023）年が始まりました。日差しが暖かく、穏やかな新年のスタートとなりました。静かだった学校に子どもたちが戻ってきて、後期後半の学校生活が始まりました。

学校生活も残すところ約50日です。今のクラスで過ごす日も残りわずかになってきました。充実した日を過ごし、たくさんのいい思い出をつくってほしいと思っています。また、子どもたちには、「1月からの50日はあつという間に過ぎます。4月の進級・進学に向けてしっかりと準備をしていきましょう。」という話もしました。この3ヶ月を有意義に過ごし、心も体も成長して進級・進学を迎えてほしいものです。

「成人の日」に

1月9日（月）は成人の日でした。成人の日には、各地で「二十歳のつどい（18歳が「成人」となったため「二十歳のつどい」という名称になっています。）」が開催されていました。成人、あるいは二十歳はまだまだ先のように、6年生が12歳ですから、6年後には「成人」となり、8年後には「二十歳のつどい」に出席することになります。恐らく、あつという間にその時を迎えるのではなかろうかと思えます。私事で恐縮ですが、我が子も、ついこの前までは学生だったのが、あれこれいろいろありましたが、いつの間にか成人し、就職し、家庭を持ち、気がつけば30を越えました。横道にそれましたが、遠いようで、成人や二十歳までそう長くはないということです。

冬休みに読んでいた本に、「学校は社会で生きていくための基礎を学ぶところだ。テストの点数や通知表の成績などが大切であることは間違いない。しかし、学校生活の中だけで目標を絞ることは決して好ましくない。」ということが書かれていました。子どもたちが社会に出るために、今どのような力をつけておけばよいのかという、将来を見据えた中・長期的な目標を持つことも大切であるということだと思えます。

二十歳の若者がインタビューで、「親に『育ててくれてありがとう。』と言いたい。」「将来は、消防士になってまちを守りたい。」「勉強して新たに資格を取って、いずれは工事現場の責任者になりたい。」と答えていました。わたしは、自分を取り巻く人々への感謝の気持ちを素直に述べている若者、夢や希望を生き生きと語る若者、向上心を持って自分の可能性を広げていこうとする若者に、たくましさとしなやかさを感じました。そして、こういった若者は、きっとこれから出会うであろう様々な荒波もきっと乗り越えていくのではないかと感じました。「学校は社会で生きていくための基礎を学ぶところである」ということを考えると、学校生活を通して、子どもたちの中にある周囲への感謝の念や、夢・希望、向上心などを膨らませていくことが大切なのではないかと考えさせられました。

成人の日考えたことです。